

令和4年度 上半期 執行状況

令和4年4月1日から9月30日までの上半期の町事業執行状況をお知らせします。

一般会計では、予算総額78億1千5百万円（令和3年度からの繰越事業費分も含む）に対し、収入済額が31億8,515万6千円（収入率40.8%）、支出済額が22億4,535万2千円（執行率28.7%）となっています。また、各特別会計及び起債残高などは次のとおりです。

各会計とも概ね計画どおりに事業が進められています。

■一般会計

【歳入】

区分	予算現額	収入済額	収入率(%)
町税	901,100	445,103	49.4
地方譲与税	51,519	15,712	30.5
各種交付金	178,800	130,884	73.2
地方交付税	2,818,519	1,780,531	63.2
分担金および負担金	26,757	9,223	34.5
使用料および手数料	77,473	34,488	44.5
国庫支出金	1,092,646	40,810	3.7
県支出金	827,497	48,832	5.9
財産収入	1,721	1,326	77.0
寄附金	295,002	143,087	48.5
繰入金	887,066	4	0.0
繰越金	190,377	512,876	269.4
諸収入	84,193	22,282	26.5
町債	382,320	0	0.0
合計	7,815,000	3,185,156	40.8

【歳出】

区分	予算現額	支出済額	執行率(%)
議会費	91,105	46,118	50.6
総務費	1,644,354	421,694	25.6
民生費	1,322,320	496,061	37.5
衛生費	1,977,297	299,715	15.2
労働費	6,221	6,221	100.0
農林水産業費	407,300	122,907	30.2
商工費	92,099	42,400	46.0
土木費	550,993	201,622	36.6
消防費	466,665	191,136	41.0
教育費	668,123	244,575	36.6
災害復旧費	229,054	39,063	17.1
公債費	354,468	133,841	37.8
諸支出金	1	0	0.0
予備費	5,000	0	0.0
合計	7,815,000	2,245,352	28.7

■特別会計

会計名	予算現額	収入済額	収入率(%)	支出済額	執行率(%)
大木戸財産区特別会計	153	170	111.4	57	37.4
入山財産区特別会計	194	231	119.3	50	25.7
石母田財産区特別会計	17,715	17,664	99.7	17,441	98.5
公共下水道事業特別会計	262,028	124,380	47.5	107,717	41.1
後期高齢者医療特別会計	151,504	55,011	36.3	48,146	31.8
国民健康保険特別会計	1,035,820	438,806	42.4	356,675	34.4
介護保険特別会計	1,557,443	766,178	49.2	597,559	38.4
土地開発事業特別会計	4	75	1,882.1	0	0.0
湧水対策施設特別会計	9,452	10,126	107.1	5,786	61.2

■北山組合一般会計

会計名	予算現額	収入済額	収入率(%)	支出済額	執行率(%)
北山組合一般会計	824	822	99.8	187	22.7

■水道事業会計

区分	収入		支出	
	予算現額	収入済額	予算現額	支出済額
収益的収支	251,337	112,367	253,677	64,324
資本的収支	49,926	0	142,780	9,167

■町債残高

区分	9月末残高
一般会計	5,694,254
水道事業	340,604
公共下水道事業	1,251,055
合計	7,285,913

☎総務課財政係 ☎ 585-2114

くみ学園構想シンポジウム 好きに、挑む。

“くみっ子”の学びを考える——。大人ができることは何か。

これからの学校が、「答え」よりも「好き」を見つけられる場所であってほしい。

未来の教育を想像し、子どもも大人もワクワクする学校を考えました。



現代社会はスマートフォンがあれば何でもできる時代。インターネットでヒトとモノがつながり、AIやロボットの技術でさまざまな可能性が広がる時代です。この時代を生きる子どもたちに必要な力とは何でしょうか。東京学芸大学で「未来の学校みんなで創ろう！プロジェクト」に関わる松田恵示副学長が講演しました。

これからは「知識」の「習得」から「使う能力」の育成へ

これまでの教育は、「知識の習得」が重視されてきました。これからは、「知識を使う能力」が重視されます。新しい学習指導要領では「課題を発見し、みんなで考えて解決できる力、責任を持って遂行できる力」を育成するとしています。

大人の役割は子どもたちに関わる

教育の目的は、全ての子どもたちの「楽しい」「生きてよかつた」との思いの実現にあります。「知識を使う能力」は「課題を発見する、解決策を考える、実行する」を、「現実の課題に出会う、体験すること」で育成されます。つまり、学校・家庭・地域の大人たちの関わりがとても大切で、そのような学校にいる子どもたちだから、「好きに、挑む」思いを持って、未知なる未来を歩んでいくのではないのでしょうか。



国見町長 引地 真

学ぶことを楽しむ学校がいい

子どもがいろんなことに挑戦する、経験するチャンスを準備するのが大人の役目と思う。

個人的な意見だが、くみ学園では、「学ぶことを楽しむ」、「自然の中で学ぶ」、勉強は先生、それ以外のことは専門知識のある人やボランティアに委ねる「余白のある教育」、ルールがない、興味をとことん突き詰めるなど「面倒くさい学校」、「ダメと言わない教育、子育て」ができればいいと思う。子どもが真中で、大人はちょっと余裕を持ってみられる環境づくりができる学校だったらいいな。



東京学芸大学 副学長 松田恵示

卒業しても学校づくりに関わる

子どもたちも自分たちの学校をつくるって、大人が真剣になってくれてすごいうれしいことだと思うし、また、自分たちの学校をどうしよう、と考えることもすごい楽しいことと思う。

子どもたちの声を聞いた時、「僕、2年後には卒業しちゃうし、つまらない。」と言う子がいた。別な子は、「レガシー残していくみたいなんじゃん。」とも言った。子どもたちがタテにつながり、卒業しても学校づくりに関わって思いを残していく。町全体で学校を巡って一つになって未来に向かう国見町の取り組みはうらやましい。



森のピッコロようちえん 代表 中島久美子

いいこと考えた！は乗り越える力

Aくんが泣いていると、年長組さんが寄ってきて、「ちかちゃんと遊びたかったんだね」「ちかちゃんちに電話する？」「そんなに遊びたいならうちに帰っちゃう？」と話している。「わかった！いいこと考えた！」「今日は力ぜで来ないから、ちかちゃんの絵を描いてあげるよ。」と、みんなで描いていた。「これでちかちゃんが近くにいるよ。」と渡したんです。

「わかった、いいこと考えた。」は乗り越える力。子どもが子どもの気持ちをわかり、みんなが応援してくれる力が自分の力になる。